

おおいた産医療関連機器 フォーケアクッションを導入しました！

医療法人聡明会児玉病院リハビリテーション科では入院患者様に理学療法・作業療法・言語聴覚療法をしています。患者様によってそれぞれの療法を提供できる時間は様々ですが、長い方で1時間程度車イスに乗っていただくこともあります。その中で患者様から「おしりが痛くなる」「おしりが痛いからベッドに戻りたい」「体がきつくなる」などのご意見をいただくことがありました。積極的なリハビリテーション医療の促進、安楽な療養を提供という観点に立つと苦痛なく座っていただけるということはとても重要なことと考えます。

当院には様々な機能をもったクッションもありますが、いずれも評価用として準備しており、多くの患者様に提供できる状態にはありませんでした。大分県医療ロボット・機器産業協議会のおおいた産医療関連機器導入推進事業から補助を受けられることは以前から知っていましたが、フォーケアクッションが対象にあることを知らずにいました。補助を受けられるのであれば、リハビリテーション科として複数購入し、患者様のADL・QOL向上に少しでも貢献できるのでは考え購入する運びとなりました。

図1 購入したフォーケアクッション Basic3 cmと5 cm



実際に導入してみたところ、患者様からは「今までのものよりいいな」など好評をいただいております。また患者様の主観だけでなく、実際に座圧（座っているときにお尻に加わる圧力）を測定したところ以下のような結果が得られました(表1)。

表1 フォーケアクッションの有無による座圧の違い

車イス座位	座圧 (圧の最も高い部位)
フォーケアクッション なし	89.9mmHg
フォーケアクッション あり	39.0mmHg

この患者様においてはクッションを利用する前は食事もベッド上で取っていました。理由は「座っているとお尻が痛くなるから」。クッションを利用することで「食堂に行き食事を取ってみようか」と自ら

の意思でベッドから離れて活動範囲を広げようとする行動がみられました。

図2 フォークアクションを使用して食事している場面



また別の患者様においてリクライニング車イスに乗っている際の座圧を測定しました。40° のリクライニング角度を付けた状態での座圧のかかり具合は以下の通りです（表2）

表2 フォークアクション有無での 40° リクライニング車イス座位での座圧の違い

40° リクライニング車イス座位	座圧（圧の最も高い部位）
通常クッション	70.3mmHg
フォークアクション	39.9mmHg

図3 40° の角度をつけたリクライニング車イスでフォークアクションを使用してる場面



この他にも余暇時間に車イス座位で TV ゲームや将棋などをされる患者様にも好評をいただいております。また臀部の褥瘡治療の為、入院されていた患者様にも使用し痛みなく車イスに乗ることが出来ています。

本来は、院内で定期的に開催していました院内デイでの集団活動や集団レクリエーション時に参加者にフォーケアクションを利用していただく予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の発生などがあり、院内デイが開催できていませんでした。今後、再開の見通しが立ちましたので順次活用の幅を広げていく次第です。

※掲載している写真に写る患者様には、ご本人様およびご家族様に承諾を得て掲載しております。

文責：児玉病院リハビリテーション科 科長 寺村